

第1回裾野市中小企業等振興推進会議 議事録

日時 令和4年4月15日(金)

15:00~17:05

会場 裾野市役所 401 会議室

出席委員:9名(土屋浩三、堀口綾子、西島隆彦、荻島昭章、押尾昌俊、出口謙一郎、
石黒貴正、室伏ゆり江、和田智之)

欠席委員:3名(中川好大、渡邊昌志、福澤義明)

オブザーバー:静岡県経営支援課 宇田隆昌

議長:土屋浩三会長

<配布資料>

次第、委員名簿、資料1 ~ 資料4、裾野市産業基本計画、すそのブランドパンフレット
県提供資料

1. 協議事項

(1) 中小企業振興に必要な施策について

- 資料3に基づき、実施済み事業について事務局が説明
- 資料4に基づき市の課題や今後の協議テーマ等について事務局が提案

<議長>

- ・市の課題や今後の協議テーマについて各委員からの意見を伺う

<委員 A>

【コロナ支援について】

- ・家族経営の事業所の場合、一人がコロナ感染してしまうと家族が濃厚接触者として自宅待機となり事業(工事・作業や事務処理等)ができなくなる。
- ・家族経営の中小事業者家族がコロナ感染した際のソフト面での支援があると良い

【インターンシップへの取り組みについて】

- ・就職してすぐに必要になる資格が何種類かあるが、春休み期間中に資格を取得しておく実践にすぐに役立つ
- ・資格取得に対する補助があると良い

<委員 B>

【各事業の成果に対する評価について】

- ・事業に対する具体的なビジョンや成果目標は、今後どのように策定されるのか
- ・平成 29 年の産業基本計画の現状分析はいかがか。直近調査で実際の現場での困りごとに対する具体的な対策を取ることが基本となる
- ・具体的な、例えばウーブン・シティについてなどをテーマとして取り上げることを検討していただきたい。

<事務局>

- ・産業基本計画の上位計画として裾野市総合計画、またその実施計画等においても数値管理はしているので今後示していく。
- ・ウーブン・シティについては最近改訂した国土利用総合計画や都市計画マスタープラン等においても関連付けがされてきており、今後改訂が必要となる産業基本計画においても皆様からの意見をいただきながら進めていきたい。

<委員 C>

【資料4の2、今後の協議テーマ(案)について】

- ・テーマ案はヒアリングに基づく要望として多かったものか
- ・中小企業が必要とし喜んでいただけるテーマとする必要がある

【中小企業の課題や要望について】

- ・大きく「コロナ禍での資金繰り支援」「事業再構築支援」「本業の支援」「承継の支援」の4点に集約される
- ・裾野市でも実施している利子補給による資金繰り経営改善支援が必要
- ・本業以外に新しい事業を立ち上げるための事業再構築支援が必要
- ・本業の取引先を増やすための支援が必要
- ・県内事業所の60%は後継者がいないため、後継者を設定する支援や第3者への売却もしくは廃業手続き等の支援が必要

【今後中小企業に必要となる取組について】

- ・グリーンへの取り組みに対する支援(カーボンニュートラル・脱炭素など)
- ・デジタル化への支援(IT化による生産性の向上)
- ・人材に関するダイバーシティの取り組み(外国人労働者の登用)

<事務局>

- ・「資料 4」は多くの意見の集約ではなく、個別に企業からいただいた意見のピックアップである
- ・中小企業等が抱える 4 つの課題や今後必要となる3つの取り組みを教えていただいたが、まさにこれは欲しかった生の情報であり、委員それぞれの観点からの意見や情

報をお聞きする場にしていきたい

<委員 D>

- ・事業の評価検証については、PDCA サイクルを回していくと良い
- ・具体的に達成率を数字で表すことも必要と思われる
- ・なぜこうなったのか、なぜうまくいかないのか、5W1H の何が必要なのかを突き詰めていくことで評価検証や課題に対応していけるようになると思われる
- ・評価検証も課題解決も同時並行で進めていく必要がある

<事務局>

- ・行政として事業の評価検証として PDCA サイクルを回していく必要性を感じている
- ・裾野市の中小企業の中でも 4 つの課題や 3 つの取り組みに対応できない事業所に対していかに意識改革を促すか情報提供していくかについて体制づくりの必要性を感じた

<委員 E>

- ・人材不足を補うためのデジタル化の支援を必要としている
- ・キャッシュレス決済事業においては事業の実施で終了ではなく、様子を見に行くとかお金がなくても人を出して知恵を出すサポートをして欲しい
- ・市も商工会もサポートや連携をしっかりとっていただきたい
- ・市役所には中小企業同士を連携させるハブの役割を担ってほしい
- ・飲食店(惣菜業)と小規模保育所が連携した実例を挙げ、市には困っている人同士のハブの役割を担って欲しい
- ・市役所には情報発信に力を入れてほしい
- ・メルマガは初耳だしツイッターが止まっていることももったいないので、裾野の魅力をもっと発信して欲しい

<事務局>

- ・他の用事で訪問した際に併せてヒアリングをした実績はあるが、キャッシュレス決済事業の一環としてのヒアリング訪問ではなかった。実施事業に対するヒアリングは今後実施していく必要があると感じた
- ・困っている人同士のハブにとのことについては、市役所内での情報共有ができていないことを痛感した
- ・情報発信力は市としての取り組み強化を図る必要があると感じた

<委員 F>

- ・商工会への創業支援の相談はあるが、市内での創業に結び付くことは少ない
- ・事業承継は少なく廃業が多いのが現況であるが、巡回指導により少しでも事業承継件数を増やしていくことを重点目標としている

- ・商工会の事業についてチラシを作成し市内に周知するよう準備している
- ・情報発信については市と連携して積極的に実施していきたい

<事務局>

- ・継続して協力し連携していきたい

<委員 G>

- ・就職内定率に影響があるものではないが、心構えとしてインターンシップの経験未経験の差はあるので、市内事業所にはインターンシップに協力していただけるとありがたい
- ・今まではハローワークから一覧表をいただいた中からインターンシップ先を選択していたが、地元企業にお願いできるのであればありがたい
- ・高校のビジネス系列と市内事業所が協力して商品開発事業を進めてきた
- ・高校の他の系列でも市内事業所と協力してできることを増やしていきたい

<事務局>

- ・市役所をハブにして情報共有できれば良いと考える

<委員 H>

- ・市内事業所に通勤する従業員は車で通勤する人が多いので、車で立ち寄れるようなお店があると良い
- ・ウーブン・シティや岩波駅周辺事業の進捗情報があれば市内の活性化に繋がるのではないかと
- ・人口減少に歯止めをかけるための住宅取得等に係る移住支援が長期的施策として必要ではないかと

<事務局>

- ・中心市街地活性化事業とも関連付けながらウーブン・シティや岩波駅周辺の整備事業について可能な情報発信に努めていく